

# 平成27年度 妙高市算数部 活動報告

部長 磯部 仁

## 1 研究主題

社会や生活との関連を実感させる算数・数学の授業づくり

## 2 研究の概要

学校における教科学習が社会や将来の夢と密接に関わっていることを学習者に実感させることが、私たち教師に求められている。

算数・数学を学んで得た力を社会とつなげ、活かしていく子どもの育成を目指して、講演、講義、グループワークを通して、教師の教育観、子ども観の転換を図る必要性を実感するとともに、明日からの算数・数学の授業づくりに役立つ貴重な示唆を得た。

## 3 研究の実際

### (1) 講演(8月20日、新井総合コミュニティセンター)

○講師 上越教育大学准教授 中野博幸 様

テーマ「社会や生活との関連を実感させる算数・数学の授業づくり」

○主な内容

「私たちが教えていることは20年後、30年後に必要な学力なのか」という問いかけがなされ、未来を見据え、子どもには社会の変化に対応する資質・能力、いわゆる21世紀型能力を育成する必要があると指摘された。まさに今、教育観、子ども観の転換が求められているのである。

また、社会事象から問題を発見する能力を育んだり豊かな量感や数的感覚を育てたりする授業づくりについて具体例を挙げて説明された。

講演の後半には、一人1台ずつiPadが配付され、建物内外から事象を発見し、教材化する個人ワーク、グループワークを行った。



### (2) 講義(11月10日、斐太北小学校 図書室)

○講師 妙高高原中学校 梅川貢司

○主な内容

「算数・数学と社会・文化のつながり」(長崎栄三. 2001. 明治図書)、「算数・数学の授業における意外性」(布川和彦. 1999. 上越数学教育研究)を用いて、算数・数学と社会・文化をつなげるには、相互作用(話し合い)と数学的活動がポイントであることを体験的に学んだ。

後半は、現行教科書を用いてグループワークを行い、数学的活動を取り入れた授業づくりについて協議した。

## 4 成果と課題

中野准教授の講演は、教師の教育観、子ども観の転換を図る必要性を実感するとともに iPad を用いて身の回りの事象から学習課題を見い出す演習ができ、有意義だった。また、11月のグループ協議では、「体を使った学習課題を工夫したい」、「中学校の確率や統計は社会との関連を実感させやすい单元なので、課題を開発したい」、「量感覚や広さの感覚、時間の感覚を子どもたちに身に付けさせたい」といった各自の研修意欲を向上させる感想をたくさん聞くことができた。次年度も継続して、社会の事象と関連付けた授業実践を推進したい。